

日本史籍講読6－III

科目ナンバリング JPH-411
選択必修 2単位

山下 須美礼

1. 授業の概要(ねらい)

幕末維新时期に記された史料を読み解くことで、当時の人々が時代の変化をどのように受けとめ、対応しようとしていたのかについて考察を行う。扱う史料は、横浜など幕末の開港場に関わった人々が書き残した記録から配布する。前半はグループワーク等で史料の読みや内容を少しずつ確認しながら全員で輪読するとともに、後半は担当者による発表により授業を進める。

2. 授業の到達目標

近世史料の読解力を養うとともに、関連する史料や文献の探し方、調べ方を修得する。

3. 成績評価の方法および基準

- ① 予習に基づいた、毎回の授業への参加度(30%)
- ② 発表担当の際の準備度合いおよびその発表内容(30%)
- ③ 春期末に行う筆記試験(40%)

4. 教科書・参考文献

参考文献

若尾俊平 図録 古文書入門事典 柏書房
保谷徹 幕末維新論集 幕末維新と情報 吉川弘文館
井上勲 日本の時代史 20 開国と幕末の動乱 吉川弘文館
田中彰 日本の歴史⑮ 開国と倒幕 集英社
神奈川県企画調査部県史編集室 神奈川県史 通史編3 近世2 神奈川県
函館市史編さん室 函館市史 通説編 第2巻 函館市

5. 準備学修の内容

授業内で予習プリントを配布する。それに沿って各自で読み方や意味を調べ、文意を把握し、次の授業に臨む。必要に応じて他の史料や参考文献にあたり、背景となる政治や社会状況についても説明できるようにする。

6. その他履修上の注意事項

- ・毎回の予習は必須である。
- ・史料の読み方や内容を確認し、分からないところをはっきりさせた上で授業に参加すること。
- ・質疑応答への参加も必須。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス(テキスト・参考文献の紹介・授業の進め方・評価の仕方)
- 【第2回】 史料の読解①:辞書などの使い方について学ぶ
- 【第3回】 史料の読解②:参考文献や論文の検索などについて学ぶ
- 【第4回】 史料の読解③:近世史料の表記について学ぶ
- 【第5回】 史料の読解④:近世史料の書き下しについて学ぶ
- 【第6回】 史料の読解⑤:近世史料読解に必要な基礎知識を身につける
- 【第7回】 巡検
- 【第8回】 発表と質疑応答①
- 【第9回】 発表と質疑応答②
- 【第10回】 発表と質疑応答③
- 【第11回】 発表と質疑応答④
- 【第12回】 発表と質疑応答⑤
- 【第13回】 発表と質疑応答⑥
- 【第14回】 発表と質疑応答⑦および試験
- 【第15回】 試験の返却と解答の確認を通した授業のまとめ